

サカタインクス株式会社

株主の皆様へ

第140期 中間報告書

平成29年1月1日～平成29年6月30日

証券コード:4633

SAKATA INX...
Visual Communication Technology



Business Theme

Visual Communication Technology

サカティンクスグループのビジネステーマは

「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」

社会にとって価値ある情報をビジュアル化する新たな技術開発のために、

そして真に人々の暮らしを快適にする情報文化の創造を目指して、

絶え間ない挑戦を続けてまいります。

C O N T E N T S

株主の皆様へ	P. 2
第140期上期の取り組み	P. 3
グローバルネットワーク	P. 5
中期経営計画2017	P. 6
連結業績・財務ハイライト	P. 7
連結財務諸表	P. 8
セグメント別概況	P. 9
社会・環境活動への取り組み	P.11
株主様向け情報	P.12
会社情報	P.13
株式情報	P.14

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第140期中間報告書をお届けするにあたり、サカイクスを代表してご挨拶申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 森田 耕太郎

■ 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国は景気の回復が続く、欧州も緩やかな景気の回復が続きました。アジアにおいては、全体的に持ち直しの動きが広がりました。日本経済は、雇用・所得環境の改善が続く、緩やかな回復基調を維持しているものの、海外景気の下振れが懸念される状況で推移しました。

このような状況の中で、当社グループはコア事業である印刷インキ事業において、アジアを中心とした各拠点での拡販に注力するとともに、環境に配慮した高機能・高品質製品やコスト競争力に優れた地域密着型製品の開発、TPM活動の推進・展開による生産性向上とコスト削減などに取り組みました。一方、機能性材料事業では、インクジェットインキをはじめとして、トナー、カラーフィルター用顔料分散液などの開発・拡販に取り組みました。

売上高は、パッケージ関連の印刷インキの拡販が進み、機能性材料も好調であったことなどから、772億7千2百万円（前年同期比2.6%増加）となりました。

利益面では、販売数量の増加が寄与したものの、拡販に向けた先行コストや海外における原材料費など費用負担が高んだことなどから、営業利益は45億5千8百万円（前年同期比7.9%減少）となりました。経常利益は為替差損益の改善などにより、59億2千3百万円（前年同期比1.3%減少）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は投資有価証券売却益を計上したことなどから、46億3千万円（前年同期比12.4%増加）となりました。

なお、中間配当金は1株当たり14円とさせていただきます。

■ 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績を踏まえて、平成29年2月24日に公表しました通期の業績予想を修正し、売上高1,585億円、営業利益96億円、経常利益120億円、親会社株主に帰属する当期純利益87億円としております。売上高は、一時的な需要の減少による拡販の遅れなどにより、前回予想を下回る見込みであります。営業利益は、売上高が下回ることに加え、拡販に向けた先行コストや原材料費など費用負担が高むことなどから、前回予想を下回る見込みであり、経常利益は為替差損益の改善が見込まれるものの、前回予想を下回る見込みであります。親会社株主に帰属する当期純利益は、税金費用が減少する見込みであることから、前回予想と同額になる見込みであります。なお、前提条件として、海外連結子会社の収益・費用の為替換算にあたって影響を受け易いUSDルにつき

ましては、第3四半期以降は1ドル当たり112.00円、通期で112.00円（年間単純平均）としております。

また、当社は、株主の皆様に対する利益配当金を含めた利益還元を経営の重要施策として位置付けており、財務体質と経営基盤の強化、並びに長期的な展望に立った投資への資金需要に備えるための内部留保を行いつつ、安定的に配当を行うことにより利益還元を図ることを基本方針としております。平成29年12月期の期末配当予想につきましては、上記の方針と通期の連結業績予想を踏まえ、利益配当金により株主の皆様へ一層の利益還元を図ることを目的として、1株当たり2円増配し16円に修正いたします。これにより、年間配当金は中間配当金と合わせて1株当たり30円となる予定であります。

平成29年9月

第140期上期の取り組み

The 140th Term First Half Activities

サカタインクスグループは、「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」をビジネステーマに、「人々の暮らしを快適にする情報文化の創造」を存在意義と定めており、技術力、情報力を駆使し、「競争力と独自性を有した世界三大インキメーカーになること」を目標としています。また、地球環境保全活動に積極的に取り組み、「地球にやさしく、人にやさしく、そして美しく」をテーマとし、あらゆる事業活動において環境に配慮した経営を図ります。

今後もより一層企業価値の向上を目指し、さまざまな施策を実行してまいります。

国際ナショナル・アドバイザリー・ボードを開催

2017年5月に大阪本社で第3回「国際ナショナル・アドバイザリー・ボード」を開催しました。

「国際ナショナル・アドバイザリー・ボード」は当社グループの企業価値の最大化を図るべく、グローバルな経営のあり方について海外関係会社の役員などの意見も効果的に取り入れながら、検討するための機関です。今回の会議では海外事業のさらなる成長のための戦略などについて話し合いました。

グローバルにビジネスを展開するサカタインクスグループ内の広い知識と経験を有したメンバーによる助言や提言を生かして、企業価値の向上に努めるとともに、今後も積極的な海外展開を図り、確固たる地位を築くべく、邁進してまいります。



国際ナショナル・アドバイザリー・ボード

海外生産拠点の強化を継続

当社グループは、アジアなど新興国における印刷インキの需要の増加やシェアの拡大、欧米での拡販に対応するため、海外各拠点での生産体制の拡充を継続しています。

2017年4月にアメリカのカンザス州エドワーズビルにおいて、販売拡大に伴い、UV(紫外線)などのエネルギー硬化型インキ工場を拡張しました。旺盛な現地需要を取り込むとともに、将来に向けた製造スペースの確保、リードタイムの短縮などを図ってまいります。

また、インドネシアでは、現地の需要増加に対応すべく、グラビアインキの生産能力増強を2017年5月に行いました。さらなる販売強化を図っていくとともに、環境に配慮した高品質な製品を供給していきます。

今後も、地域に応じた戦略・展開を推進し、各拠点で将来も見据えた生産体制の充実を図ってまいります。



カンザス(アメリカ)



ジャカルタ(インドネシア)

下期に 向けての 展望

コア事業である印刷インキ事業においては、日米欧の成熟した市場では、環境に配慮した高機能・高品質なインキによるシェアの拡大と、成長が期待されるアジア地域では市場ニーズに合致したインキの投入による拡販を図ります。また、機能性材料事業においても、基盤技術の応用拡大のもと、グローバルに販売展開を進めます。さらに、当社が強みとする工場力による生産技術の革新を推進し、全社を挙げて業績の向上に努めてまいります。

「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」 の認証を取得

当社は、2017年1月に「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」の認証を取得しました。

大阪市では、法令の遵守にとどまらず、「意欲のある女性が活躍し続けられる組織づくり」、「仕事と生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)支援」などについて積極的に推進する企業を一定の基準に従って認証し、女性の活躍促進に向けて社会全体で取り組んでいくことを目指し、認証事業を実施しています。

2017年6月現在、大阪市内の約300社が認証を受けていますが、当社はノー残業デーの実施や年休取得率の向上などのワーク・ライフ・バランスへの取り組みや、女性社員数や女性係長職の増加などが認められ、今回の認証となりました。

今後もさらなるワーク・ライフ・バランスの充実に向けて、引き続き取り組んでまいります。



認証書

「nano tech 2017 (第16回 国際ナノテクノロジー総合展)」に出展

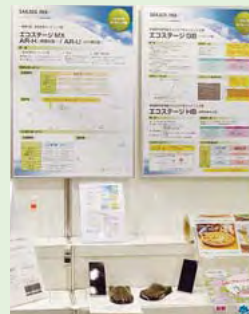
2017年2月に東京ビッグサイトにて開催された「nano tech 2017(第16回 国際ナノテクノロジー総合展)」に出展しました。この展示会は、ナノテクノロジーに関連した材料や加工技術、評価技術、装置を対象とした国際総合展です。

当社は、各種機能性分散液、バリア性コーティング剤、光学用機能性材料(高屈折/低屈折コーティング剤)、ITO透明絶縁コーティング剤、インクジェットインキおよび参考出品としてカーボンナノチューブ分散体といった新規技術を用いた製品および各種試作品の紹介を行い、当社の高い技術力を来場者にアピールしました。

今後も、当社の基盤技術を生かした製品の拡販と、新たな市場の開拓に努めてまいります。



当社出展ブース



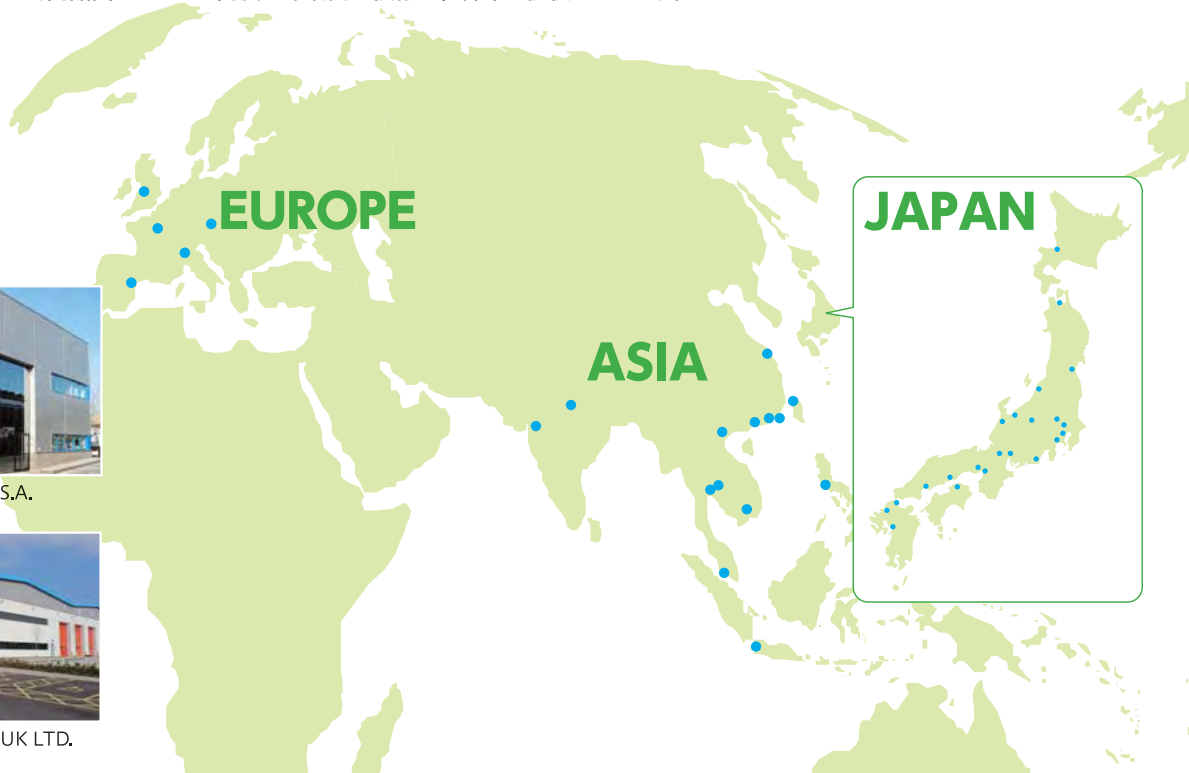
製品紹介と参考出品

グローバルネットワーク

Global Network

全世界の現地法人との連携を図りながら高品質なインキを提供しています。

「人々の暮らしを快適にする情報文化の創造」を存在意義とするサカタインクスグループは、早くから海外進出を図り、世界の主要国に生産・販売拠点を拡大してきました。多様化・高度化する全世界の技術情報、市場情報を的確にとらえ、日本・北米を中心に、アジア・欧州の現地法人と密接に連携しながら、高品質なインキと高度な印刷関連技術を世界中に提供しています。



SAKATA INX ESPAÑA, S.A.
(スペイン・バルセロナ)



INX INTERNATIONAL UK LTD.
(イギリス・マンチェスター)



PT. SAKATA INX INDONESIA
(インドネシア・ジャカルタ)



SAKATA INX (INDIA) PRIVATE LTD.
(インド・ニューデリー)



SAKATA INX VIETNAM CO., LTD.
(ベトナム・ホーチミン)



MAOMING SAKATA INX CO., LTD.
(中国・広東省茂名)

中期経営計画2017 ~For the Next Stage~ Mid-term Business Plan 2017

創業120周年を越えてさらなる飛躍

当社は、第140期(平成29年12月期)に向けた3か年の「中期経営計画2017」を策定しています。その概要を株主の皆様にお知らせいたします。

当社グループは、ステークホルダーの信頼をより高めるために、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、企業としての持続的成長を果たすとともに、CSR活動の充実により、経営基盤の強化を図ります。

事業戦略としては、グローバル展開による着実な成長を果たし、世界の各市場において確固たる地位を築いていきます。

コア事業である印刷インキ事業は、国内基盤のさらなる充実を図り、先進国では、高機能、高品質な製品を拡販します。伸長著しい新興国では、地域密着型製品の開発投入により積極的に売上を拡大します。さらに、生産技術の革新を目指したTPM活動の水平展開により、生産プロセスの一層の効率化、低コスト化を図ります。

機能性材料事業は、成長の期待できるデジタル印刷材料分野、画像表示材料分野、機能性コーティング剤を中心に、グローバルにビジネスを推進し、事業拡充を図ります。そして、当社の持つコア事業で培った技術と他分野の技術を融合し、応用展開を図ることから、新規分野に挑戦します。

これらの基本方針のもとに、利益を生む企業体質を創ることにより、企業理念である『ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造』に向けて邁進し、2017年に迎える第140期の計画値を、連結ベースで売上高1,850億円、営業利益110億円、経常利益120億円、親会社株主に帰属する当期純利益76億円として、持続的に将来のさらなる成長を目指します。

なお、「中期経営計画2017」の最終年度にあたる第140期の予想は、下記のようになりました。

第140期予想値と中期経営計画第140期計画値 (単位:億円)

	第140期予想値	第140期計画値
売上高	1,585	1,850
営業利益	96	110
経常利益	120	120
親会社株主に帰属する当期純利益	87	76



大阪本社



東京本社



INX INTERNATIONAL INK CO.
(アメリカ・オハイオ)



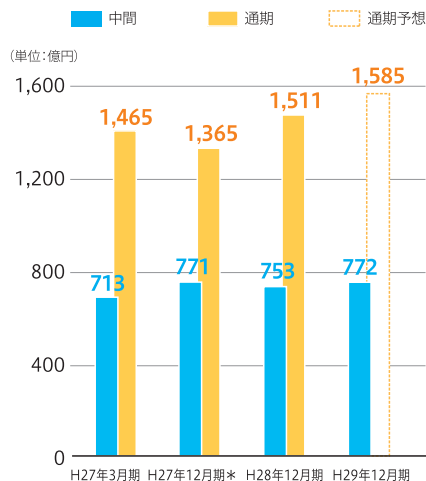
INX INTERNATIONAL INK CO.
(アメリカ・シカゴ)

AMERICAS

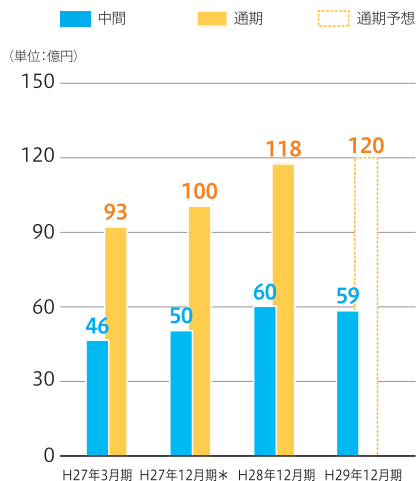
連結業績・財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

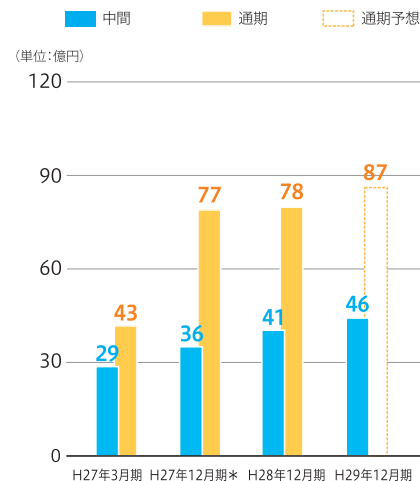
売上高



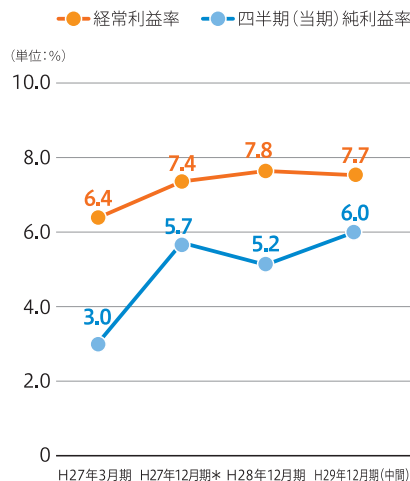
経常利益



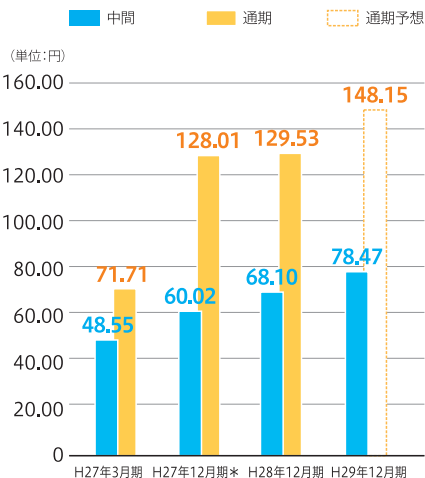
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



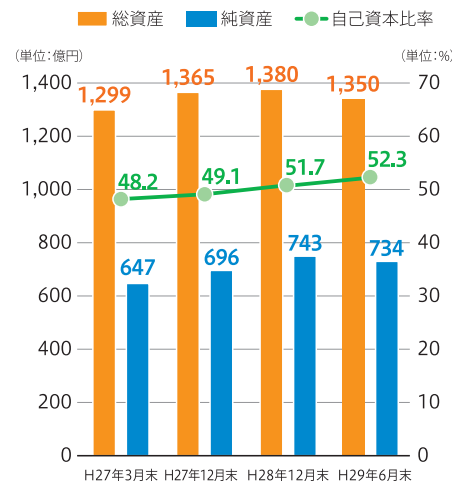
経常利益率/四半期(当期)純利益率



1株当たり四半期(当期)純利益



総資産/純資産/自己資本比率



*「H27年12月期」: インドを除く海外子会社はH27年1~12月を、国内連結会社およびインド子会社はH27年4~12月を連結対象期間としています。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	期 別	当第2四半期 連結会計期末	前期末
		平成29年6月30日	平成28年12月31日
資産の部			
流動資産		69,817	71,716
固定資産		65,256	66,295
有形固定資産		35,469	35,853
無形固定資産		978	1,050
投資その他の資産		28,808	29,392
資産合計		135,073	138,012
負債の部			
流動負債		41,961	45,304
固定負債		19,674	18,393
負債合計		61,635	63,698
純資産の部			
株主資本		71,802	71,555
資本金		7,472	7,472
資本剰余金		5,672	5,672
利益剰余金		62,702	59,053
自己株式		△4,046	△643
その他の包括利益累計額		△1,165	△193
その他有価証券評価差額金		3,958	4,027
繰延ヘッジ損益		△1	△0
為替換算調整勘定		△3,596	△2,615
退職給付に係る調整累計額		△1,525	△1,604
非支配株主持分		2,801	2,952
純資産合計		73,438	74,313
負債純資産合計		135,073	138,012

■ 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	期 別	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
		平成29年1月1日～ 平成29年6月30日	平成28年1月1日～ 平成28年6月30日
売上高		77,272	75,305
売上原価		58,705	56,799
売上総利益		18,567	18,506
販売費及び一般管理費		14,009	13,553
営業利益		4,558	4,952
営業外収益		1,525	1,350
営業外費用		161	299
経常利益		5,923	6,003
特別利益		1,117	46
特別損失		246	-
税金等調整前四半期純利益		6,794	6,050
法人税、住民税及び事業税		1,869	1,576
法人税等調整額		55	4
法人税等合計		1,924	1,581
四半期純利益		4,869	4,468
非支配株主に帰属する四半期純利益		239	348
親会社株主に帰属する四半期純利益		4,630	4,120

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

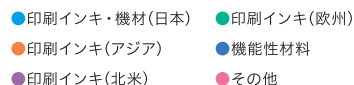
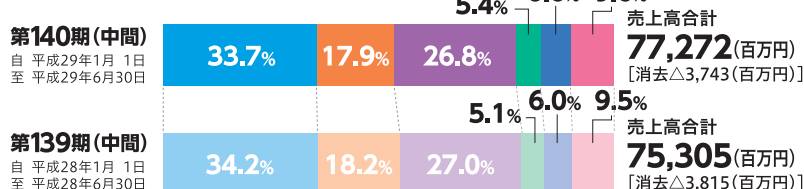
科 目	期 別	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
		平成29年1月1日～ 平成29年6月30日	平成28年1月1日～ 平成28年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー		2,728	4,193
投資活動によるキャッシュ・フロー		△575	△3,394
財務活動によるキャッシュ・フロー		△5,606	△2,806
現金及び現金同等物に係る換算差額		△194	△523
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△3,647	△2,532
現金及び現金同等物の期首残高		9,297	7,888
現金及び現金同等物の四半期末残高		5,649	5,356

*百万円未満を切捨てて表示しています。

セグメント別概況

Segment Information

セグメント別売上高構成



(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、日本における化成成品事業、ディスプレイサービス事業および色彩関連機器事業等を含んでおります。

印刷インキ・機材(日本)

売上高
272億9千4百万円

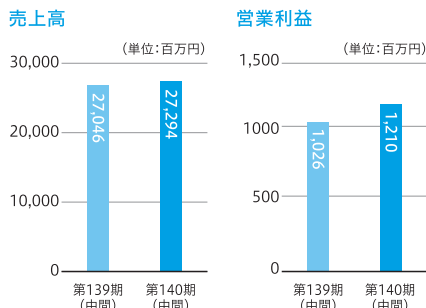
前年同期比 0.9%増

主要製商品

新聞インキ、オフセットインキ、フレキシインキ、グラビアインキ、印刷製版用材料、印刷製版関連機器

パッケージ関連では、飲料、食品関係を中心とした堅調な需要に支えられ、グラビアインキ、フレキシインキの拡販が進みました。印刷情報関連では、新聞インキは需要の低迷などにより前年同期を下回ったものの、オフセットインキは前年同期並みとなりました。以上のことから、印刷インキ全体では前年同期を上回りました。機材につきましては、印刷製版用材料は低調であったものの、印刷製版関連機器の販売は増加しました。これらの結果、売上高は272億9千4百万円(前年同期比0.9%増加)となりました。

利益面では、印刷インキの販売が堅調であったことやコスト削減が寄与したことなどから、営業利益は12億1千万円(前年同期比17.9%増加)となりました。



印刷インキ(アジア)

売上高
145億2千5百万円

前年同期比 0.8%増

(参考)

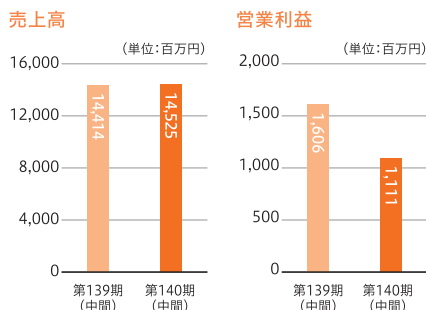
為替影響排除後 0.7%増

主要製商品

新聞インキ、オフセットインキ、メタルインキ、フレキシインキ、グラビアインキ

主力であるパッケージ関連のグラビアインキは、ベトナムが昨年からの引き続き好調であったものの、インドは新たな物品・サービス税(GST)の導入に伴う買い控えなどの影響を受け、また、インドネシアは営業日数が前年同期より少なかったことなどから、全体としては伸び悩みました。印刷情報関連では、新聞インキの拡販が進みました。以上のことから、売上高は145億2千5百万円(前年同期比0.8%増加)となりました。

利益面では、販売数量が伸び悩んだことに加え、原材料費をはじめとして人件費などのコストが増加したことなどから、営業利益は11億1千1百万円(前年同期比30.8%減少)となりました。



印刷インキ(北米)

売上高
216億9千7百万円

前年同期比 **1.4%**増

(参考)
為替影響排除後 **0.6%**増

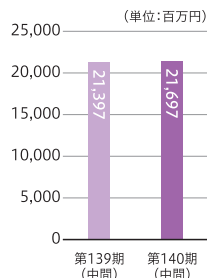
主要製商品

オフセットインキ、メタルインキ、
フレキシインキ、グラビアインキ

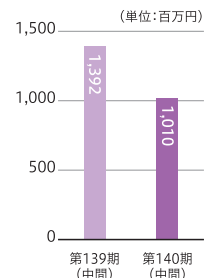
主力のパッケージ関連では、高性能インキの拡販に取り組み、フレキシインキ、グラビアインキおよびメタルインキが概ね堅調に推移しました。印刷情報関連であるオフセットインキは、需要が減少する傾向にある中、UVインキなどが堅調に推移しました。売上高は、円安による為替換算の影響を受けた結果、216億9千7百万円(前年同期比1.4%増加)となりました。

利益面では、販売数量が前年同期を上回ったものの、人件費などの拡販に向けた先行コストや貸倒費用が増加したことなどから、営業利益は10億1千万円(前年同期比27.4%減少)となりました。

売上高



営業利益



印刷インキ(欧州)

売上高
43億9千7百万円

前年同期比 **8.5%**増

(参考)
為替影響排除後 **15.7%**増

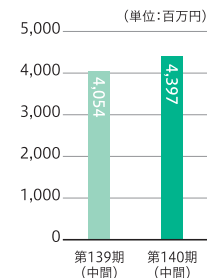
主要製商品

オフセットインキ、メタルインキ、
フレキシインキ、グラビアインキ

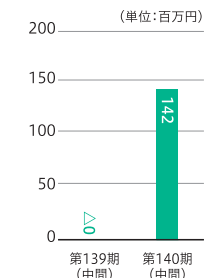
パッケージ関連を中心とした生産・販売体制の再構築に取り組み、全般的に拡販が進みました。売上高は、円高による為替換算の影響を受けたものの、販売数量が増加したことなどから、43億9千7百万円(前年同期比8.5%増加)となりました。

利益面では、販売数量の増加が寄与したことなどから、営業利益は1億4千2百万円(前年同期は0百万円の営業損失)となりました。

売上高



営業利益



機能性材料

売上高
53億7千3百万円

前年同期比 **13.8%**増

(参考)
為替影響排除後 **14.0%**増

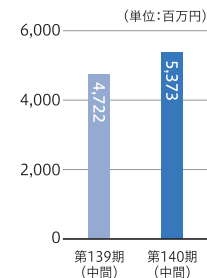
主要製商品

インクジェットインキ、トナー、
カラーフィルター用顔料分散液、
機能性コーティング剤

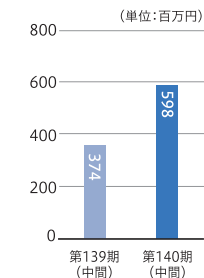
デジタル印刷分野では、インクジェットインキは日本での販売が順調に推移し、欧米での販売もやや上向いてきたことから、前年同期を上回りました。トナーにつきましては海外向けが比較的好調に推移し、前年同期を上回りました。画像表示材料であるカラーフィルター用顔料分散液は販売が伸長し、前年同期を上回りました。これらの結果、売上高は53億7千3百万円(前年同期比13.8%増加)となりました。

利益面では、全般的な販売数量の増加が寄与したことなどから、営業利益は5億9千8百万円(前年同期比60.0%増加)となりました。

売上高



営業利益



社会・環境活動への取り組み

Approaches on Social and Environment Activities

① 植物由来材料を一部に使用した「ボタニカルインキ」の展開

当社は、業界ニーズを常につかみながら、環境に配慮したインキ設計を進めています。なかでも、当社のグラビアインキにおいて、化石資源の節約と二酸化炭素排出量削減を目的とし、植物由来材料を一部に使用したインキを「ボタニカルインキ」と称して、昨年末から展開を始めました。大手コンビニエンスストアの商品/パッケージにも採用されるなど、多くのお客様から反響をいただき、好評を得ています。ボタニカルインキが使用された印刷物には、独自のロゴマークが印刷されていますので、ぜひご注目ください。このほかにも、米ぬか油由来の成分を含有した「ライスインキ」も展開しています。



ボタニカルインキマーク

② 「社会・環境報告書2017」を発行しました

「社会・環境報告書2017」(2017年6月発行)には、サカタインクスの事業活動における社会とのコミュニケーションや環境負荷低減活動などを掲載しており、概要は以下の通りです。

1. 社会性報告 (P.5~P.16)

コーポレート・ガバナンスに関する当社の姿勢や、CSR委員会が統括する各委員会(リスク・コンプライアンス委員会、内部統制委員会、環境経営委員会、品質委員会、全社安全衛生委員会)の基本方針や取り組み概要を掲載しています。

“社会とのかかわり”には、社会・地域への貢献として、国内や海外現地法人(アメリカ、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ、インド)の取り組みを掲載し、また、株主・投資家や顧客・取引先とのかかわりも紹介しています。そして、“従業員とのかかわり”には各種制度の紹介や交通安全活動、TPM活動、大規模地震対応模擬訓練、労働安全衛生などの取り組みを掲載しています。



チャリティーバザー(マレーシア) チャリティーイベントでの飲食物の提供(ベトナム)

2. 環境負荷低減への取り組み (P.27~P.30)

工場や本社などの環境データ(例:大気汚染物質排出量推移、廃棄物のリサイクル率など)、P R T R法に基づく化学物質の排出量・移動量データなどを継続掲載しています。

また、省エネルギーや滋賀工場太陽光発電所の発電などの取り組みによる、使用エネルギーの二酸化炭素換算量および原単位の推移や、東京工場、大阪工場、滋賀工場、羽生工場でリサイクル率99.5%以上(ゼロエミッション)を達成したことを掲載しています。



「社会・環境報告書2017」

「社会・環境報告書2017」の発行形態

- 体 裁:A4版フルカラー 36ページ
- インキ:当社100%植物油型水無シ枚葉オフセットインキ『Diatone 水無シエコピュアSOY CL』使用
- 印 刷:水無シ印刷方式
- 用 紙:FSC認証紙
- ホームページ:
「環境・品質・安全衛生への取り組み」
(<http://www.inx.co.jp/eco/>)

株主様向け情報

Information for Shareholders

■ 当社のIR活動の取り組み

当社は、株主の皆様や投資家の皆様に必要な企業情報を適切に提供するため、IR活動に取り組んでいます。

特に、機関投資家向けのIR活動として、「個別取材」の受け入れや「機関投資家訪問」に積極的に取り組んでおり、面談の回数も年々増加しています。また、機関投資家を対象とした「決算説明会」を年2回実施しており、社長より決算内容や業績予想に加え、今後の計画などを説明しています。当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」→「(IRライブラリ)投資家向け説明会資料」(<http://www.inx.co.jp/ir/exp>)にアクセスしていただくことにより、当日の資料をご覧いただけます。

今後も当社の知名度向上と事業内容をご理解いただき、また話題性に溢れ、成長していく企業として認知していただくべく、IR活動に取り組んでまいります。



決算説明会

■ 自己株式の取得

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするために、東京証券取引所の自己株式立会外買付により、2017年2月21日に自己株式(2,108,000株)を取得しました。

■ 「J・JPX日経中小型株指数」の構成銘柄に選定

当社は、株式会社東京証券取引所および株式会社日本経済新聞社が共同で算出・配信を行う「J・JPX日経中小型株指数」(算出開始日は2017年3月13日)の構成銘柄に選定されました。

この指数は、J・JPX日経インデックス400で導入した「投資者にとって投資魅力の高い会社」を構成銘柄としたコンセプトを中小型株にも適用したもので、資本の効率的活用や投資者を意識した経営を行っている企業を選定するとともに、こうした意識をより広範な企業に普及・促進を図ることを目的としています。

今後も投資家の皆さまのご期待にお応えできるよう、企業価値の向上に努めてまいります。

■ 株主還元に関するお知らせ

配 当 金

当社は、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆様に対する利益配当を含めた利益還元を経営の重要施策として位置づけております。平成29年12月期の中間配当金は、1株当たり14円の普通配当を実施させていただくことになりました。

株 主 優 待 制 度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に株主優待を実施しています。

対象となる株主様

毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式1単位(100株)以上を保有する株主様を対象といたします。

株 主 優 待 の 内 容

保有株式数	優待内容
100株以上	QUOカード 1,000円分

贈 呈 時 期

毎年、定時株主総会終了後の3月下旬にお送りする「定時株主総会決議ご通知」とともに発送を予定しております。

会社情報

Corporate Information

■ 会社概要

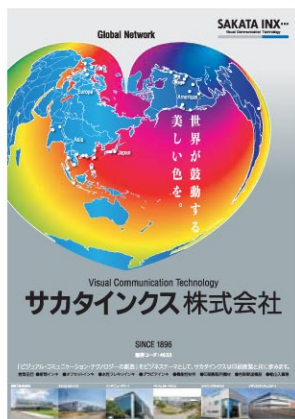
(平成29年6月30日現在)

- 創 業 明治29年11月1日
 設 立 大正9年9月5日
 資 本 7,472,768,653円
 本 社 大阪 大阪市西区江戸堀一丁目23番37号
 東京 東京都文京区後楽一丁目4番25号(日教販ビル)
 事業内容 ● 各種印刷インキ・補助剤の製造・販売
 ● 印刷用・製版用機材の販売
 ● 電子機器・情報関連機材の販売
 ● 機能性材料関連品の製造・販売
 ● 輸出入
 営業拠点 ● 支社(愛知・福岡)
 ● 支店(北海道・宮城・静岡・石川・岡山・広島・香川)
 ● 営業所(青森・新潟・神奈川・長野・富山・福岡・熊本)
 生産拠点 ● 東京工場(千葉県野田市)
 ● 大阪工場(兵庫県伊丹市)
 ● 滋賀工場(滋賀県米原市)
 ● 羽生工場(埼玉県羽生市)
 従業員数 854名

■ 企業広告を掲出

JR東海道新幹線の東京駅南のりかえ口構内および新大阪駅新幹線コンコースに、当社の企業広告を掲出しました。

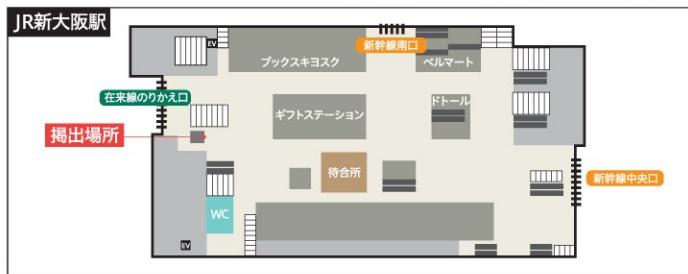
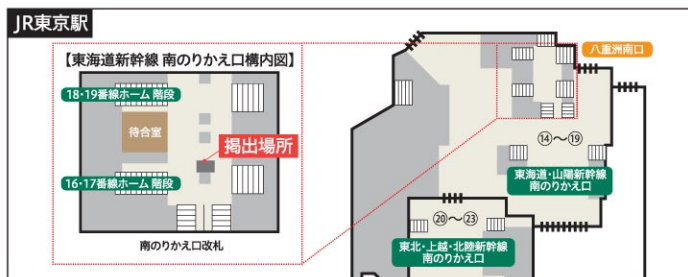
ダイナミックなカラーリングを施したハート型の世界地図が、視覚的印象から“心臓”を想起させ、それをキャッチコピーに活かし、「世界が鼓動する美しい色を。」としています。新幹線にご乗車の際は、ぜひ一度ご覧下さい。



■ 役員

(平成29年6月30日現在)

役 職	氏 名
代表取締役社長	森 田 耕 太 郎
常務取締役	中 村 正 樹
常務取締役	中 村 均
取締役 役	平 尾 耕 一
取締役 役	上 野 吉 昭
取締役 役	藤 川 和 彦
取締役 役	福 永 俊 彦
取締役 役	森 田 貴 弘
取締役 役	森 田 博
取締役(社外取締役)	中 川 克 己
取締役(社外取締役)	勝 木 保 美
常勤監査役	富 山 浩 司
常勤監査役	高 橋 孝 彰
監査役(社外監査役)	佐 藤 義 雄
監査役(社外監査役)	杉 本 宏 之



株式情報

Stock Information

株式数および株主数

(平成29年6月30日現在)

① 会社が発行する株式の総数	144,000千株
② 発行済株式の総数	62,601千株
③ 株主数	3,453名
④ 1人あたり平均持株数	18,129株
⑤ 大株主の状況	(以下の通り)

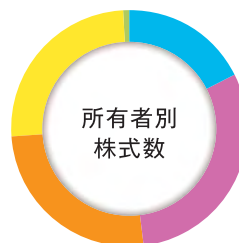
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋インキSCホールディングス株式会社	8,428	13.464
サカティンクス株式会社	4,201	6.711
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,779	6.037
住友生命保険相互会社	3,510	5.606
日本スタートアップ信託銀行株式会社(信託口)	3,131	5.002
JP MORGAN CHASE BANK 380684	2,617	4.180
株式会社りそな銀行	1,563	2.496
サカティンクス社員持株会	1,486	2.375
有限会社神戸物産	1,416	2.262
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE HCR00	1,291	2.063

※持株数は、千株未満を切捨てて表示しています。

※持株比率は、小数第4位以下を切捨て、第3位までを表示しています。

株式の分布状況

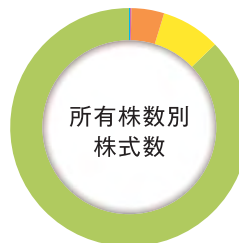
(平成29年6月30日現在)



(千株) (株数百分率)

● 個人・その他	10,966	17.52%
● 金融機関	19,248	30.75%
● その他国内法人	16,198	25.87%
● 外国人	15,792	25.23%
● 証券会社	394	0.63%

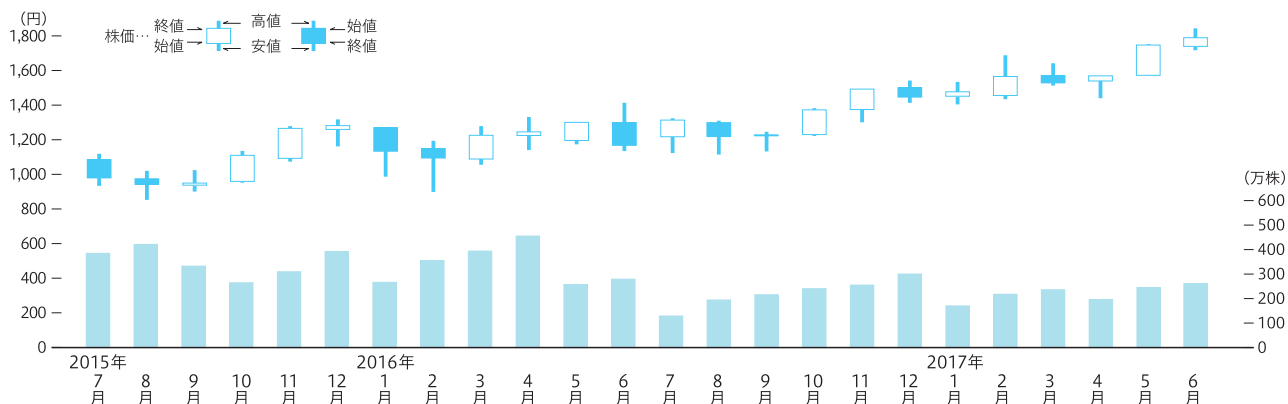
(個人・その他に自己名義株式を含む)



(千株) (株数百分率)

● 百株未満	13	0.02%
● 百株以上	269	0.43%
● 千株以上	2,601	4.16%
● 一万株以上	5,252	8.39%
● 十万株以上	54,464	87.00%

株価および出来高の推移



株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月開催
基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当金 毎年12月31日
中間配当金 毎年6月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031

(URL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。
(公告掲載URL <http://www.inx.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告
ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京証券取引所

会計監査人 有限責任 あずさ監査法人

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続き
が必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社など
へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載
し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書 ○配当金に関する支払調書
○単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引
に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主様
下記のフリーダイヤルまでお問い合わせください。
三井住友信託銀行 証券代行部
☎0120-782-031

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお問い合わせ先について

株主様の口座のある証券会社にお問い合わせください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、
特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせ
ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社までお問い合わせ
ください。

サカタインクス株式会社

■大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37
TEL 06-6447-5811

■東京本社 〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-25(日教版ビル)
TEL 03-5689-6601

●ホームページ

<http://www.inx.co.jp/>



この報告書は、FSC®認証紙を使用し、インキ中のVOC(揮発性有機化合物)成分を取り除き、植物油成分に
置き換えて開発した当社製のDiatoneエコピュアSOY CL-100Xにて印刷しております。